

### 睡眠のトラブル、 まずは自宅でチェックしませんか？

当院では、このたび「簡易PSG（ポリソムノグラフィ）」検査を導入しました。簡易PSGは、睡眠時無呼吸症候群（SAS）をはじめとする睡眠関連疾患を調べるための検査で、小型の機器を使ってご自宅で簡単に実施できることが大きな特徴です。

検査はご自宅で普段通りに就寝しながら行っていただき、翌日、機器は同梱の梱包材を使って郵送で返却していただきます。来院の必要が少なく、忙しい方でも受けやすい仕組みとなっています。検査機器は、呼吸状態、血中酸素濃度、いびき、体動などを自動的に記録し、睡眠中に無呼吸や低呼吸が起きていないかを確認します。

一般の方にとっては、「日中の強い眠気」「家族からのいびき・無呼吸の指摘」など、気になる症状の原因を調べる第一歩としてご活用いただけます。睡眠時無呼吸症候群を放置すると、高血圧や心疾患につながる可能性があることも知られており、早期発見はとても重要です。

「まずは自宅で簡単に調べてみたい」という方は、どうぞお気軽にご相談ください。



#### 「簡易PSG（ポリソムノグラフィ）」検査



## i INFORMATION

当院からのお知らせや情報をお届けします。

### 自動精算機導入のお知らせ

このたび当センターでは、患者さんの会計待ち時間の短縮と利便性向上を目的に、新たに自動精算機を導入いたしました。診察後のお支払いを、よりスムーズに、より快適にご利用いただけるよう、現金・クレジットカード・デビットカードと複数の支払方法に対応しております。また、入院費のお支払いにも利用可能です。

操作は画面の案内に従って簡単に行えるほか、不明な点がございましたらスタッフがサポートいたします。なお、従来どおり窓口でのお支払いも可能ですので、安心してご利用ください。

今後も皆さまにとって利用しやすい環境づくりを進めてまいります。



### 周辺地図



### アクセス

#### 公共交通機関ご利用の場合

##### 電車▶バス

JR東海道本線「近江八幡駅」下車、近江鉄道に乗り換え「八日市駅」下車。

【近江鉄道バスご利用の場合】

「東近江総合医療センター」または「五智前」下車。

【コミュニティバス(ちよこっとバス)ご利用の場合】

市原・沖野玉緒・南部御園線「東近江総合医療センター」下車。

##### 高速バス

名神高速バス「名神八日市」下車、東方へ徒歩約5分。

#### 車をご利用の場合

名神高速道路「八日市IC」から約2分。

「八日市IC」を出て1つ目の信号を右折し約300m先右側。

# つながり

## 特集 新院長メッセージ

### 地域を見据え、 一人ひとりの患者を診る

院長  
谷 眞至  
Tani Masaji

病院からの  
最新情報をお  
届けします!



院長  
Tani Masaji  
谷 眞至



## 特集 新院長メッセージ

# 地域を見据え、一人ひとりの患者を診る

当院は2026年4月より、谷院長の新体制のもと新たな歩みを進めることになりました。地域医療を取り巻く環境が変化するなか、中核病院として求められる役割とは—。今回の特集では、これからの病院づくりや地域医療への取り組みについて、新院長のメッセージをお届けします。

## 患者さんに向き合い、ニーズに応える医療を

2026年度より、東近江総合医療センター院長を拝命いたしました谷と申します。私は消化器外科、特に肝胆膵外科を専門とし、これまで消化器がんを中心とした外科治療に携わるとともに、研究・教育にも取り組んできました。また、2025年3月まで当院の副院長として病院運営にも関わり、地域医療を支える役割の重要性を実感してきました。

これまでの経験を通じて、住民のみなさまや地域の医療関係者の方々から信頼される病院であり続けることが、当院に求められる大切な役割であり使命だと考えています。その実現のためには、高度な医療技術や設備を備えることも重要ですが、それだけでなく、患者さん一人ひとりの病状や全身状態、ライフスタイル、価値観などを踏まえ、それぞれのニーズに応える個別性のある医療を提供していくことが大切です。言い換えれば、「病気を診るのではなく、人を診る医療」を実践することが、地域を支える医療機関としての意義といえるでしょう。

また、患者さんが安心して治療に臨み、元気を取り戻していただけるよう努めると同時に、職員が心身ともに健康で、いきいきと働ける環境づくりにも、これまで以上に力を注いでまいります。患者さんに寄り添う医療を実践し、職員が力を発揮できる組織づくりを進めることで、満足度の高い医療につなげていきたいと考えています。



## 地域の中核病院として幅広い診療を提供

東近江市をはじめ、近江八幡市・日野町・竜王町を含む当院の医療圏では、全国の多くの地方都市と同様に高齢化が進んでおり、今後も高齢

者人口の増加が見込まれています。一方で、若い世代や現役世代は減少傾向にあり、医療を支える担い手の確保が課題となっています。さらに、湖東地域はその広さに比べて医療機関の数は決して多いとはいえ、特に当院のような規模の急性期総合病院となると限られているのが現状です。

このような地域の特性を踏まえ、ひとつの医療機関だけで診療を完結させるのではなく、地域全体がワンチームとなって住民の方々の健康を支える体制が欠かせません。そのなかで当院は、地域の中核病院として幅広い疾患に対応する役割を担っています。

近年は小児・周産期医療と救急医療を大きな柱と位置付け、体制の充実を図ってきました。小児・周産期医療は軌道に乗り、さらなる充実を目指しているところです。救急医療についても、できる限り緊急搬送の要請に応えられるよう取り組みを進めており、その成果が着実に表れています。また、より高度な治療が必要な場合には、滋賀医科大学医学部附属病院をはじめとする大病院と連携するネットワークを構築しています。こうした連携を円滑に行うため、当院では早い段階で病状を的確に見極める診断にも努めています。

## さまざまな診療科・職種が緊密に連携するチーム医療

当院の特徴は、急性期総合病院としてオールラウンドな診療を基本としながら、専門性の高い医師やコメディカルスタッフが所属している点です。特に呼吸器系と消化器系は以前から力を入れており、高い評価をいただいています。現在はその他の診療科においても高い水準の医療を提供できていると自負しています。

さまざまな診療科や職種が互いに協力し合っていることも強みのひとつです。現在の医療においてチーム医療は不可欠ですが、当院では診療科や部門、職種の垣根を超えて臨機応変に連携し、それぞれの専門性を活かすことで、より効果的な治療とケアにつなげています。

新しい治療方法も積極的に取り入れています。とりわけ近年は薬剤の進歩が目覚ましく、有効な治療の選択肢が増えてきました。一方で、これまでみられなかった副作用が生じるケースもあるため、十分な注意を払いながら対応しています。加えて、合併症を抱え、複数の診療科で治療を受けている患者さんが多いことから、医師や薬剤師が連携してポリファーマシーへの対策にも取り組んでいます。

## 積極的なコミュニケーションで地域のネットワークを強化

切れ目のない医療を提供していくためには、地域の医療機関がそれぞれの役割を果たしながら、互いに協力し合う関係が欠かせません。ありがたいことに湖東地域では、開業医の先生方のご協力もあり、そうした仕組みは概ね機能していると感じています。当院でも、ご紹介いただく際や、治療後にかかりつけの先生へ診療をお戻しする際には、分かりやすく丁寧な情報共有を心がけています。今後もクリニックをはじめとする医療機関はもちろんのこと、訪問看護ステーションや介護施設とのネットワーク強化も図っていききたいと思います。

さまざまな課題解決に取り組んでいるところではありますが、まだ改善すべき点も残されています。たとえば、当院の医師が得意としている領域や、多く手がけている疾患について、院外へ十分にお伝えできていないことがあげられます。これらの情報については、『つながり』やホームページなどを活用し、積極的に発信していく必要があります。

また、「顔の見える関係」を築くことも大切です。これまでは医師が中心となり開業医の先生方を訪問してまいりましたが、今後は看護師や薬剤師、栄養士なども講座やイベントを通じて情報発信や意見交換を行い、地域全体の医療の質向上に貢献できればと考えています。

将来を担う人材の育成と確保も大きなテーマといえるでしょう。当院は、滋賀医科大学地域医療教育研究拠点として、医学生の臨床実習を受け入れています。当院での学びを通してこの地域で働く意義や魅力を感じてもらい、将来、湖東地域で活躍してくれることを期待しています。実際にそうした若い医師も増えており、大変心強く感じています。



## 働きやすい環境づくりでより良い医療の実現へ

働く環境づくりについては、医師の働き方改革が社会的な課題となっていますが、当院では医師に限らず、すべての職員が無理なく働き続けられる環境を整えることを重視しています。そして、一人ひとりが仕事にやりがいや使命感をもって業務に向き合える風土を育てていきたいと考えています。

こうした取り組みは、職員の充実した暮らしを支えるだけでなく、医療サービスの質向上につながることは間違いありません。仕事への誇りと心のゆとりをもつことが、患者さんへの丁寧な説明や、挨拶する際の笑顔につながるはず。こうした日々の積み重ねが、病院全体の信頼や安心感を育んでいくものと信じています。

その他にも、体力や認知機能が低下した高齢の患者さんに対して、どのように必要な医療を提供していくかも今後の大きなテーマです。先ほど申し上げた通り、当院の医療圏である湖東地域は面積が広い一方で医療機関がそれほど多くなく、東西の交通網も十分とはいえないため、医療へのアクセス改善も課題となっています。このような状況に対応するため、長期的かつ俯瞰的な視野をもち、行政や関係団体のみならず意見を交わしながら、地域としてより良い環境づくりを進めていければと考えています。

その第一歩として、まずは当院の強みや課題を改めて洗い出し、精査することからはじめたいと思っています。そして、自院の医療をより一層充実させるとともに、地域医療にどのように貢献できるのかを明確にし、着実に取り組みを進めてまいります。今後とも、地域のみならず健康を支える中核病院としての役割を果たせるよう、職員一同力を尽くしてまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## Profile



院長  
谷 眞至

1987年 卒  
2014年8月 滋賀医科大学 外科学講座 教授  
2024年4月 同 医学部附属病院 副院長  
2025年10月 東近江総合医療センター 副院長(兼任)  
2026年4月より現職



教えて！  
東近江総合  
医療センター

東近江総合医療センターの

# 診療科をご紹介します

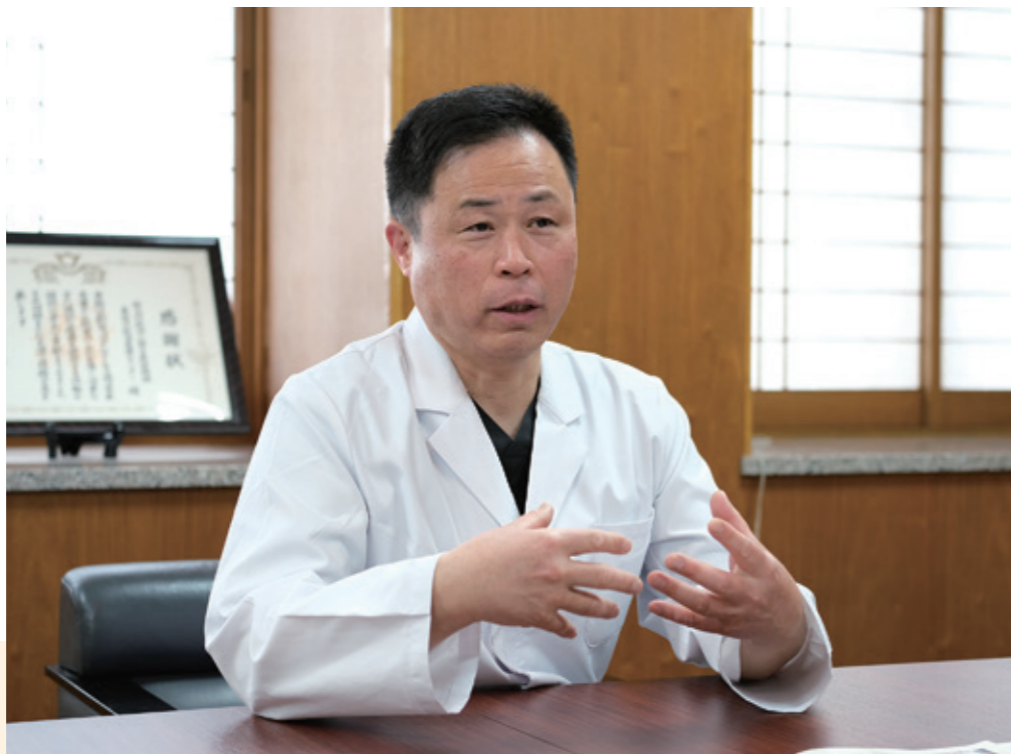
東近江総合医療センターの診療科をご紹介します。

## 麻酔科



麻酔科部長

藤野 能久



### 患者さんの安全・安心を支える 丁寧な術前診察を実施

麻酔科は、手術中の麻酔を行うだけでなく、全身管理を通じて周術期の患者さんの安全を支える役割を担っています。なかでも手術中は、血圧や心拍数、体温に加え、脳液や血中酸素飽和度、呼吸状況などを監視し、鎮痛薬や鎮静薬、循環作動薬の投与量を調整しながら全身状態を安定させます。これにより外科医が安心して手技に集中できる環境を整え、安全な手術につなげています。

当科の特徴のひとつは、術前診察を重視している点です。麻酔科医が患者さんからお話をうかがい、さまざまな情報を収集したうえで、その方に適した麻酔管理の方法を提案しています。その際には丁寧な説明を行い、ご理解・納得していただくことで不安の軽減を図っています。



手術前は通常、誤嚥予防のため絶飲食が必要ですが、長時間の絶飲は脱水につながりやすく、手術中の血圧低下を招くことがあります。そこで当科では誤嚥予防に十分配慮したうえで、手術当日でも一定量の飲水をしていただくことで脱水を防ぎ、より良好な状態で手術に臨めるようにしています。

### 早期回復に効果的な 硬膜外麻酔を積極的に併用

当科では、全身麻酔を行う場合でも、硬膜外麻酔や神経ブロックなどの伝達麻酔を積極的に併用しています。これらを用いることで術後の鎮痛効果を長く保つことができ、体を動かした際の痛みも軽減できる利点があります。特に硬膜外麻酔は感覚神経を中心に作用し、運動神経を比較的保てるため、術後早期からリハビリテーションを開始することが可能です。

一方で硬膜外麻酔は手技の難易度が高く、専門的なスキルと経験が求められるため、積極的に取り入れている医療機関はそれほど多くありません。当科は多くの症例を経験しており、その知見を活かして安全で質の高い手技・管理に努めています。

### 術後疼痛管理チームが 適切な術後管理をサポート

さらに当科では術後管理にも力を入れており、手術後の痛みの軽減と、悪心・嘔吐といった副作用の抑制を図っています。その一環として、麻酔科医をはじめ薬剤師や手術室看護師など多職種で構成された術後疼痛管理チームを設置。手術翌日には回診を行い、患者さんの状態を確認するとともに、定期的な検討会を通じて術後管理の質向上につなげています。

また、患者さん自身が鎮痛薬を投与できるPCA（患者自己制御鎮痛法）についても、適切に行えるようきめ細かな指導とサポートを行っています。こうした取り組みにより、当院の2024年データでは術後の悪心・嘔吐の平均発生率は約10%にとどまり、副作用を抑えながら高い鎮痛効果が得られていることが示されています。今後も患者さんの安全を第一に、ストレスフリーな周術期管理を目指して取り組んでいきます。

## 歯科口腔外科



歯科口腔外科医長

堤 泰彦



### 病院の歯科口腔外科として さまざまな疾患に対応

当科では、主に歯科医院の先生方が、病院の歯科口腔外科での治療が必要と判断された患者さんや、緊急の治療を要する患者さんの治療を行っています。原則的に緊急性のない場合は紹介患者さんに限定して対応しています。治療の大半を占めるのは、親知らずの抜歯となっています。近年は予防歯科が定着してきたこともあり、歯槽膿漏などの口腔感染症は減少しています。また、交通事故による顔面の外傷（顎骨・頬骨骨折、歯の脱臼など）も、エアバッグや自動緊急ブレーキシテムの普及によって減少傾向にあります。一方で、口腔インプラント手術や入院患者さんの口腔管理が増加しています。

当科は、地域医療を支える中核病院の歯科口腔外科として、これらの疾患の他にも、顎変形症、顎関節症、顎骨腫瘍、味覚障害など、さまざまな口腔外科的疾患に対応できる体制を整えています。湖東地域には歯科口腔外科を備えた総合病院が多いため、当科は高度な治療を必要とする患者さんを受け入れる拠点としての役割とともに入院患者さん全体の口腔管理の役割を担っているといえるでしょう。

### 入院患者さんの 口腔ケアにも力を注ぐ

当科の特徴として、専門医による2人体制で診療にあたっていることが挙げられます。これにより幅広い疾患に対応できるだけでなく、専門性のある診療を安定して提供することが可能です。

また、入院患者さんの口腔ケアにも力を入れています。口腔内の細菌を減らすことで、誤嚥性肺炎や人工呼吸器関連肺炎の予防、摂食・嚥下機能の維持などにつながります。特に手術を受ける患者さんについては、術前に口腔環境を整えることで術後の経過が良くなるとされており、化学療法に対しても補助療法として口腔ケアが注目されていて特に周術期のケアを



重視しています。高齢の患者さんに対しても肺炎による死亡率の低下や早期回復に有効とされているため、積極的に取り組んでいます。

具体的には毎週口腔ケアラウンドを実施し、集中的なケアが必要な患者さんに対して、看護師が適切なケアを行えるよう支援しています。こうした活動は他科との連携が欠かせません。その点に関しては、内科、外科、婦人科、麻酔科など各診療科との連携体制を構築していることが大きな強みとなっています。

### 歯科医院の先生との 連携体制の強化を重視

総合病院の歯科口腔外科にとって、地域の歯科医院との連携は非常に重要です。信頼関係を築くために先生方との対話を通じて相互理解を深めるよう努めています。また、地域の先生方には24時間つながるホットラインをお伝えし、緊急の患者さんの受け入れや診療に関するご相談に対応しています。

私は先輩方から「自分の家族に接するように患者さんに向き合う姿勢」を教わってきました。今後もこの姿勢を大切にしながら、より安全で安心できる質の高い診療を提供していきたいと考えています。



各部門のお仕事がよくわかる！

教えて！  
東近江総合  
医療センター

## 東近江総合医療センターの部門紹介



今回ご紹介する部門は

# 褥瘡対策チーム

## 褥瘡対策チームってどんなところですか？



褥瘡対策委員会は、院内の褥瘡発生防止と重症化予防を目的に、多職種が連携して活動する専門チームです。主な業務には、褥瘡保有患者さんを対象とした定期ラウンド、褥瘡サーベイランス、個別事例の評価とケア介入、マニュアルの作成・改訂、職員教育、褥瘡予防材料の整備と適正使用の推進などが含まれます。

ラウンドでは、褥瘡保有患者さんの創部に対し「DESIGN-R2020」を用いた評価を行い、創のケア、ドレッシング材の選択、ポジショニングなど、患者さんに応じた最適なケア方法を検討しています。また、褥瘡発生リスクのある患者さんについてはカンファレンスを開催し、多職種で情報共有を行い、早期介入につなげています。

褥瘡対策委員会を毎月開催し、褥瘡発生状況や発生原因の分析、予防策の検討などについて情報共有と討議を行っています。必要に応じて医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリスタッフが個別介入を行い、各病棟と連携して褥瘡ケアの質向上を図っています。また、委員会メンバーである病棟看護師（リンクナース）が自部署で伝達講習を行えるよう、ミニレクチャーも実施しています。

サーベイランスでは、褥瘡発生率、MDRPU(医療関連機器圧迫損傷)の件数、部位別発生件数・発生率を継続的に収集・分析し、定期的に各部署へフィードバックしています。全国的な褥瘡対策やガイドラインの動向も踏まえ、院内の指標改善につなげています。

教育・啓発活動として、院内研修を年4回実施し、褥瘡予防に必要な知識と技術の定着を図っています。さらにリモートを活用し、近隣施設や訪問看護ステーションにも参加を呼びかけ、地域全体で褥瘡ケアの質向上にも取り組んでいます。

褥瘡対策委員会は、患者さんの皮膚の健康を守るため、予防と治療の両面から質の高いケアを提供することを目指し、院内外の褥瘡対策の推進に努めてまいります。

### トピックス

「MDRPU(医療関連機器圧迫損傷)発生率」をQM指標(Quality Management指標)に掲げて活動しました。2023年度に増加したMDRPUが、この活動により低下しました。この活動に対して職員表彰をしていただきました！

内訳：年度別 院内褥瘡発生率(%)  
(MDRPU+自重性褥瘡)



連携室 だより 当センターからのお知らせをお届けします。

## 相談支援体制の充実と地域連携の深化

当院では、患者さんやご家族が安心して治療や療養に向き合えるよう、看護師と医療ソーシャルワーカー(MSW)が連携し、さまざまな相談に対応する体制を整えています。医療や介護に関する不安、退院後の生活設計、在宅医療の利用方法、介護サービスの調整など、相談内容は多岐にわたります。

近年、患者さんやご家族が抱える課題はより複雑化しており、早い段階からの支援が求められています。当院では、地域の医療機関や介護事業所と連携を深め、入院前から退院後まで切れ目のない支援を提供できるよう取り組んでいます。こうした体制の充実により、より早期に相談につながるケースが増え、必要な支援を

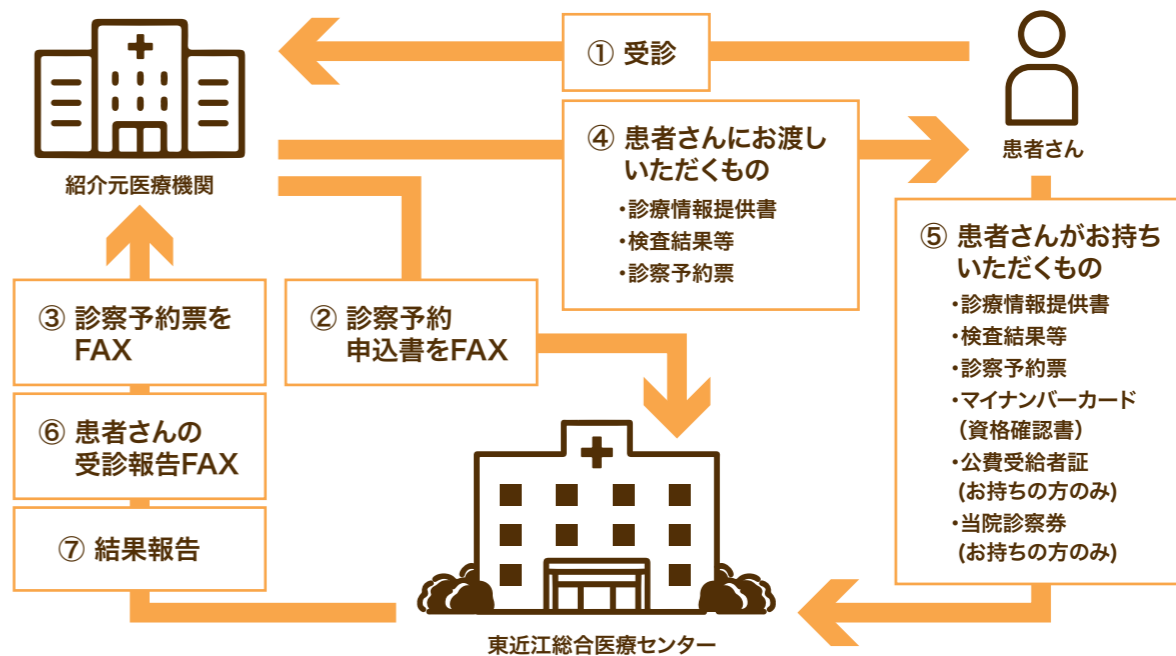
スムーズに届けられるようになっています。

また、高齢化が進む中で「住み慣れた地域で暮らしたい」という思いを持つ方が増えています。看護師やMSWは、患者さんの生活背景や価値観を大切にしながら、退院後の生活を一緒に考え、在宅医療や介護サービスの調整を行うなど、地域包括ケアの一翼を担っています。

当院は、患者さんやご家族が抱える不安に寄り添い、その人らしい生活を支えるための相談支援を大切にしています。これからも、地域と連携しながら、安心して相談できる環境づくりと質の高い支援の提供に努めてまいります。

あらかじめ予約することで、待ち時間の短縮にも！

## ご紹介の手続きと予約診療の流れ



- ① 患者さんに地域医療機関を受診していただきます。
- ② 地域医療機関から、必要事項を記入した診察予約申込書をFAXにて送付いただきます。
- ③ 受診いただく日時・担当医を記載した診察予約票を依頼元へFAXさせていただきます。
- ④ 依頼元の先生方より、患者さんへ診察予定票・紹介状をお渡しいただきます。  
受診当日、患者さんは以下の物をお持ちの上、当院受付内の初診窓口へお越し下さい。  
・診療情報提供書(紹介状・検査結果等)  
・マイナンバーカード(資格確認書)  
・診察予約票(地域医療機関の医師より受け取ってください。)
- ⑤ 簡単な手続きの後、診療科へご案内いたします。
- ⑥ 依頼元の地域医療機関へは、患者さんが受診された旨をFAXにてご報告いたします。
- ⑦ 診察医より、診療結果を地域医療連携室を通してご報告させていただきます。

お問合せ

地域医療連携室

TEL

0748-22-3030

FAX

0748-22-5626